

2026 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

会議名	2026 年度 第 1 回学校関係者評価委員会																						
開催日時	2026 年 5 月 16 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分																						
会 場	東京バイオテクノロジー専門学校 本校舎 2F 教室 (A22 教室) 大田区北糀谷 1-3-14																						
参加者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">区分</th><th style="width: 20%;">氏名</th><th style="width: 30%;">所属</th><th style="width: 30%;">役職</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等学校代表</td><td>森 章</td><td>拓殖大学紅陵高等学校</td><td>元学校長</td></tr> <tr> <td>保護者代表</td><td>高橋 貴子</td><td>バイオテクノロジー科 4 年制 2 年保護者</td><td></td></tr> <tr> <td>地域関係者</td><td>加世田 光義</td><td>おおた農水産業研究会</td><td>会長</td></tr> <tr> <td>業界関係者</td><td>池田 昭</td><td>(有)オフィスアーク</td><td>パートナー</td></tr> </tbody> </table> 【学園・学校関係出席者】 中村 道雄 学校法人 東京滋慶学園 理事長 大谷 啓一 東京バイオテクノロジー専門学校 学校長 関口 崇之 学校法人 東京滋慶学園 運営本部長 居関 暁昌 東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長 松本 靖子 東京バイオテクノロジー専門学校 教務部長 代田 望都 東京バイオテクノロジー専門学校 広報センター長 杉田 佑輔 東京バイオテクノロジー専門学校 産学連携・新規事業センター長 大山 直人 東京バイオテクノロジー専門学校 キャリアセンター長 加藤 充剛 東京バイオテクノロジー専門学校 教務事務センター長 内沢 淑子 東京バイオテクノロジー専門学校 学生サービスセンター長			区分	氏名	所属	役職	高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	元学校長	保護者代表	高橋 貴子	バイオテクノロジー科 4 年制 2 年保護者		地域関係者	加世田 光義	おおた農水産業研究会	会長	業界関係者	池田 昭	(有)オフィスアーク	パートナー
区分	氏名	所属	役職																				
高等学校代表	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	元学校長																				
保護者代表	高橋 貴子	バイオテクノロジー科 4 年制 2 年保護者																					
地域関係者	加世田 光義	おおた農水産業研究会	会長																				
業界関係者	池田 昭	(有)オフィスアーク	パートナー																				
議題	1. 開会挨拶 2. 委員の紹介・学校側紹介 3. 本委員の主旨説明 4. 2025 年度の自己評価国目と評価内容のポイント説明 5. 2026 年度の重点項目と説明 6. 産学連携の報告 7. 質疑応答・意見交換 8. 評価シートの記入方法説明と評価表記入 9. 閉会挨拶																						

大谷学校長	1. 開会挨拶 年2回の1回目実施になり、貴重な意見を頂き反映させていただいています。 2. 委員の紹介・学校側紹介 【委員】保護者代表は4年制2学年高橋さんが就任 【委員】吉岡委員（高等学校関係者）・有賀委員（卒業生）所用により欠席 【学校側】永井教務リーダー 授業により欠席
事務局長 居関	3. 主旨説明（事務局長 居関） 専門学校とは高専、一般課程、専修学校専門課程（専門学校）2676校、そのうち1123校が職業実践専門課程。本校は4年制が対象。 職業実践専門課程、専門学校の中でもより実践的、より高度な専門的授業を行っている学校が認定され、①業界、企業と参画してカリキュラムを構築していく。②企業と連携して演習、実習をしている。③教員研修をしている。④企業などを参画して学校評価をしている。⑤学校の情報公開をしている。5つの条件がある。 2026年より学校教育改正法により、職業教育の充実、学生呼称へ変更、大学同等項目の自己点検評価義務化、外部有識者評価の努力義務化になる。 また、自己点検フォーマットは10項目から6項目へ変更となる。 自己点検・自己評価は、10項目について本校の取り組みについて点検、評価の結果をお伝えし、この場で意見などを頂き、学校教育に反映をさせる。そのため学園でも今回の本委員会は重要だと位置付けている。
事務局長 居関	4. 2025年度の自己評価項目と評価内容のポイント説明 【基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント】 「職業人教育を通じて社会に貢献をしていく」をミッションに掲げ、3つの建学の理念に基づいて、カリキュラムを作成。4つの信頼を掲げ、裏切らない運営をしている。 学生配布の学生便覧には、養成目的、目標、カリキュラムを明確に定め、活用をしている。 【基準2 教育課程・教育の実施・学修支援】 教育課程は段階的にステップアップできるように作成されており学生は最適な順番で科目を受講することができる。欠席学生への補修などが課題であり、中長期的には動画教材などの整備が必要 業務経験が長く、豊富な経験を持った非常勤講師からはいつでも最新情報や意見を伺うことができる 外国人スタッフがいることで入学手続き・在留手続きはスムーズに行える 実習授業を多く設け、技術力向上を目指している 卒業研究の学外発表では多くの企業の方にお越しいただき、パネル発表を通じ

て学生と企業の方が直接質疑応答できる実践的な学びの場となっている
グループ研究では取り組みの積極性の違いは学生によりある
ディプロマポリシーに基づき、卒業進級判定会議で厳正な判定を行っている
メンタル不調で授業出席が通常通り行えない学生への長期履修制度の運用
卒業進級に関わる目標、評価、教育課程などは学生便覧に掲載
少人数制を生かした就職マッチング力、卒業後１年以内の離職率の低さ

【基準３ 学生の受け入り、学生支援】

入試及び手続き、学費の情報は募集要項に記載し情報提供をしている
入学者確保による財務基盤の安定
合理的配慮のステップは局長、教務部長同席し多面的に判断できている
建物構造上、身体障がい者の受け入れの限界がある
学生の経済的支援、奨学金案内など問題なく周知している。学費相談も対応。
部署間の共有は情報交換会議で強化
カウンセラーと教務スタッフの情報共有ははかれている。メンタル不調の重篤化。週２回、２名のカウンセラーで対応
慶生会クリニックは学園の医療機関だが、学校から遠いこともあり利用しづらい
一人ひとりの個性に合わせて実施。自主学習スペースが整っていない
課外活動は多くないが、教育行事を通じて学生同士の交流機関を設けていきたい

【基準４ 教員・教育実施組織】

新任教員はＪＥＳＣ主催の初任者研修を実施、理念、教育システムの統一した考え方を周知している
事業計画の組織図のみならず、職務分掌や担当が決まられており、各人ファイルされた資料を保持
学園内に教員の質向上を目指した研究機関（ＪＥＳＣ）の研修が充実している
現場仕事量と研修時間のバランスを保ち研修内容を現場に生かすこと
研修内容を授業内容に落とし込むことができ最新の技術、情報を提供できている
クラスマネジメント力が向上すると学生の個別対応を減少できる

【基準５ 教育環境の整備点検・改善など】

点検回収に関する業務を担う学園内企業がある
校舎、設備の老朽化、ゆとりのない教室環境が課題
防災に関するマニュアルや学園としての安否確認システムの運用

【基準６ 教育活動の基盤と情報の公表】

事業計画は５か年で計画。醸造や化粧品など大人の趣味になりやすい社会人向

杉田	け教育プログラムを構築しやすい 教務部と事務部に分かれているが、総教職員も多くないため部署間を超えて学生指導にあたっている 学園グループの研修が充実している 学校関係者評価委員会では学校運営だけでなく、学校行事、産学連携の報告もしている 情報公開は毎年ホームページを更新している 5. 2026 年度の重点目標と説明 大学教育では実現できない東京バイオにしかできない学びを創造する 既存の教育プログラムを深化させ、新学科とコラボしたプログラムを構築する ここにしかない学び、ここにしかない出会いを創造する 新たな社会人講座を創造し、開講する 産学連携教育で滋慶 EAST グループを牽引する 6. 産学連携の報告 2025 年度事例 （広島レモンビール班） 取組の動画 15 分視聴 実践的なスキルを身に着けキャリアに直結するバイオでしかできない経験 学生に職業人の意識付けとして、適度な緊張感と責任感を持って本気で取組む環境が学生の自信や誇りにつながる。また、戦略的に教育効果と進路実績を高める。 全国・海外で活躍する卒業生の紹介 （日本酒・ワイン・クラフトビールなど） 新規事業（社会人講座）について 社会人が学ぶ環境設定が教育機関に求められていることからバイオも実施をしていく。また副業を検討の社会人向けのプログラムとなっている。 ・ワインプログラム 4 名受講 ・ビールプログラム 24 名受講 ・調香師に学ぶフレグランスプログラム 7. 質疑応答・意見交換 他校との差別化は何をしているのか 3 年制のコース選択は 1 年後期で実施。バイオでしか学べない産学連携、インターンシップの現場力を学べる。担任制、じっくりコース選択ができることが他校との差別化。 広報では大学全入時代であえて専門学校を選ぶ理由の価値を訴求している。大学理系志望者に認知活動する。進学媒体からの流入者に専門学校の良さ、キャリア支援の個別化をコンテンツにして大学から専門学校への入学の動線を作っている。2 年制との差別化も就職活動、就職支援を打ち出している。
森委員 松本	
代田	

加世田委員	専門学校なので技術習得ではあるが、商品開発をした際には事務や広報などのスキルも必要となってくるのではないかな
森委員	広報活動が充実している。学びたくなるような映像。多種多様な学生、親が見ても興味をそそる活動ができている。商品開発売るための一連の流れができている学校と思う
池田委員	アメリカではブルーワーカーが高給。専門分野に特化、技術が求められる手に職の人材拡大。専門学校の役割拡大になるのではないかな。
	8. 評価シートの記入方法と評価表記入 評価方法の記入説明。評価表を記入して頂き、提出の依頼。 手元資料の自己報告書の評価項目 65 項目の小項目に沿って、2025 年度の自己点検・自己評価を実施しました。今回は第 2 次評価として、各委員の方には、全 11 項目の大項目（A3 シート）の評価とご意見を頂きます。 評価は 3 点満点評価。A3 シート左側には、自己点検評価を記載しております。右側の欄に大項目に対しての評価、改善点、よい点がありましたら、できるだけ記入をお願いします。
中村理事長	9. 閉会挨拶 貴重なご意見いただき、ありがとうございました。 専門学校の中でも定員が充足できない学校もある。学校の情報公開をすることができない学校もある中、委員の方の協力のおかげと考える。 今後とも、ご指導ください。 ◆評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について 今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落としていく。